



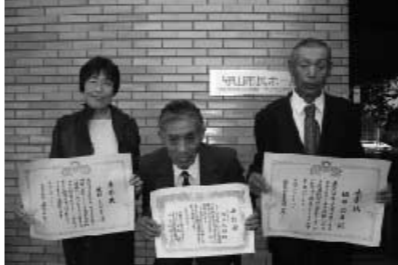
おめでとう
「私の思い2006」
優秀賞

8月27日(日)、大津市和邇文化センターで開催された「滋賀県第9回中学生広場「私の思い2006」県広場」において、今津中学校3年田中友絵さんが見事優秀賞に選ばれました。「国際交流とは」と題した発表は、韓国人留学生との出会いから自らの生き方を問うものであり、10人の発表者の中でもひと際優れており、堂々としたものでした。今後のご活躍を期待します。
(青少年室)

交通安全近畿管区
滋賀県知事表彰を受賞!

交通安全に対しての長年にわたる多大なる功績を認められ、9月8日(金)に守山市民ホールで開催された滋賀県交通安全推進大会で次の方々が表彰されました。
この表彰を励みに、市民の模範として今後ますますのご活躍を期待します。

- 近畿管区表彰
 - 交通安全功労者 岡田光國さん(新旭町)
 - 滋賀県知事表彰
 - 交通安全功労者 地村喜代子さん(安曇川町)
 - 優良運転者 横井武男さん(今津町)(交通対策課)



◀左から地村さん、岡田さん、横井さん

全国大会で認められた
高い消防救助技術

8月24日(木)に、第35回全国消防救助技術大会が札幌市で開催され、市消防本部の宮田俊勝副士長と藤井裕也副士長の2人が東近畿支部代表として出場しました。今大会には全国各支部(9支部)から選ばれた957人の救助隊員が日頃鍛え抜いた消防救助技術を披露しました。50チームが出場した「ロープ応用登はん」の部で宮田・藤井チームは見事入賞し、高島の名を全国に広めることができました。

「救助技術大会に参加し続けて13年、やっと念願が叶いました。全国大会は思っていた以上にすばらしいものでした。ぜひ、後輩達にも経験してもらいたいと思います。」
(宮田 俊勝)



(消防本部総務課)

「消防に入ってから8年。この全国救助技術大会に出場することは私の夢でした。これからも訓練に励み、市民の方々に信頼される消防士として頑張っていきたいと思えます。」
(藤井 裕也)

これからもスポーツ振興、
健康づくりに活躍を



8月20日(日)に長浜市民会館で行われた滋賀県体育指導委員研修会で、体育指導委員として10年以上地域の体育振興にご活躍いただいている方に対して、その功績を称え滋賀県体育指導委員功績者の表彰が行われました。高島市内では玉木忍さん(今津)、藪内正子さん(今津)、三矢正明さん(高島)の3人が表彰を受けられました。
今後ますますのご活躍を期待します。
(市民スポーツ課)

遊具等ありがとうございます 大切に使います

マキノ東保育園では、奈良市在住の古川眞五さんからの寄附の申し出により、園庭遊具アンパンマンロッキング3台とアンパンマン抱き人形セット1対を整備しました。
古川さんは、マキノ東保育園の前身である海津村立海津保育園(昭和28年4月1日開園)の第一期生で、郷土の子どもたちが、元気にたくましく、伸び伸び育ってほしいとの願いを込めて、このたび、ご恵贈くださったものです。
保育園では、古川さんのご厚情に深く感謝するとともに、子どもたちの健やかな成長のため有意義に活用させていただきます。
(マキノ東保育園)



市長日記

朝夕過ごしやすいくなり、美味しいものに恵まれ、褒美のような時を感じる日があります。「雨の魚」ご飯がテレビで注目され、大自然の摂理の中に飲みを見つけて暮らしてきた豊かさを教えられます。新米で粟ご飯、ホカホカの薩摩芋、外国産であってもマツタケご飯などが嬉しいのは、ご馳走であるだけでなく温かさを感じるのでしょうか。渡辺京二さんの「逝きし世の面影」という本に出会いました。幕末から明治の初め頃、次々と来日した外国人が、日本人の暮らしを驚嘆を交え書き残しており、その資料を考察しているのです。

総じて、「日本人は幸せそうであり、子どもを大事にし、年長者を敬い、清潔で倫理観が高い」と驚いたようです。欧米が植民地化していったそれまでの国とは明らかに文化性が違うことに敬意を払っています。確かに、江戸時代から続く建造物や美術品は、現代の技術では真似の出来ない物が少なくありません。(まるで私たちは欧米人? 家に家具などは殆どなく、禪姿や行水、風呂の習慣はキリスト教の道徳観からは違和感をもって見られたようですが、決して貧困ではなく、庶民の生活は楽しく生き生きしていたようです。

物に囲まれ温かな心に飢えている現代社会は、総じて不足の想いに支配されている人々になっていく気がします。私たちは何によって、不満や不安を募らせているのでしょうか。テレビの洗脳でしょうか。周りの比較でしょうか。はたまた自分達は物質文明を謳歌しながら、子どもや孫達へは悲



シリーズ
森と暮らしをつなぐ
自然素材の家づくり
プロジェクト

◆高島の森の木で家づくり
近くの森の木を使って自然素材の家を建てたいと考えたとき、その希望を実現することはできるのでしょうか。

実は、健康によく、長持ちもする家を作るのに適した木が高島の山にはたくさんあるのに、残念ながら、今はそれらが一般に流通していないのが現実です。地元の木を使った家は、30年くらい前までは当たり前のことだったのですが、木材価格が低下し、山から木を切り出しても利益が出ないため今では少なくなっています。

このため高島市森林組合では、市や県などとともに、「高島の森の木を使った自然素材の家」を市民の皆さんに提供できるよう、新たなプロジェクトを立ち上げました。

◆森と地元の技術をつなぐ

山から木をたくさん出すために森林組合から、森林所有者の方々にも協力をお願いした結果、数棟分のみが山から出てくることとなりました。また、木を正しく扱える地域の事業者の方々にも参画していただき、来年度から家づくりを進めていきたいと考えています。

◆森の恵みを生活に

このような家の値段ですが、構



造材の原木価格は、通常、家の価格の2%前後です。木が山から出てくるためには、原木価格が通常価格の2倍の値段になっても、坪単価としては6~7千円高くなる程度です(全体では、木材以外のコストなどにより、坪単価は55~70万円程度)。家の価値を考えると、このコストは決して高くはないと思われれます。

永い年月をかけて育った木を使っての家は、まだ大量生産はできませんが、ご興味をお持ちの方は、地元材を使用した家づくりの補助制度もありますので、左記へご相談ください。

また、趣旨に賛同し、一緒に取り組んでいただける事業者の方のご連絡もお待ちしています。

森の恵みを生活に、地元の人々の生活の関わりが見直される地域づくりを展開していきます。

◆家づくりのお問い合わせ

- 高島市森林組合
☎(24)0055
- 森林水産資源開発課
☎(24)8512
- 補助金のお問い合わせ
☎(24)8514
- 商工観光課
☎(24)8514